

2019年度 伝達講習 体づくり運動（小学校）

2019年8月7日（水）

研修の目的

体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、スポーツの多様な楽しみ方を社会で実践できるよう、体育が苦手な児童生徒のための授業づくりを通して、運動やスポーツに親しむ資質・能力及び運動が健康に果たす役割、健康な生活を実践するための資質・能力を図るなど、調和のとれた子供の体力向上を図るための指導法を習得し、教師の資質向上及び指導力の向上を図る。

学習指導要領改訂の基本的な考え方

○教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を活かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成。その際、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視。

○知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する現行指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成。

○先行する特別教科化など道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成。

今後の学習指導要領改訂に関するスケジュール（現時点の進捗を元にしたイメージ）

	26年度 (2014)	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)	32年度 (2020)	33年度 (2021)	34年度 (2022)
幼稚園			中教審における検討	周知・徹底	30年度～全面実施				
小学校		論点整理 27.8.28	審議案の審 28.8.28	改訂 29.3.31	周知・徹底	教科書確定	教材・供給	使用開始	32年度～全面実施
中学校	中教審総開 26.11.20			審議案の審 28.12.21	周知・徹底	教科書確定	教材・供給	使用開始	33年度～全面実施
高等学校				改訂	周知・徹底	教科書確定	教材・供給	使用開始	34年度～一年次進捗で実施

特別支援学校学習指導要領(幼稚園及び小学部・中学部)についても、平成29年4月28日に改訂告示を公示。特別支援学校学習指導要領(高等部)についても、高等学校学習指導要領と一体的に改訂を進める。

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力、人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の新設など
各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す
学習内容の削減は行わない。

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の量を増減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の改善

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

※本改訂においては、従来の学習指導要領が「学習指導要領」として示された内容が、
本改訂により変更された。変更された内容は、本改訂の学習指導要領の「変更」欄で示す。

体育科改訂の趣旨及び要点

②【改訂のポイント】

- 児童の発達の段階を踏まえ、小学校から高等学校までの12年間を見通し、指導内容を一層明確化するとともに、幼稚園並びに中学校との接続を重視。
- 運動領域と保健領域との一層の関連を図る指導に配慮することを新たに明示。
- 体力の低下傾向に対応した指導も取り入れ可能であることを新たに明示。
- オリンピック・パラリンピックに関する指導として、フェアなプレイを大切にするとともに、
各種の運動を通してスポーツの意義や価値に触れるよう新たに明示。
- 運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするため、特に、運動が苦手な児童や運動に意欲的に取り組まない児童等への指導方法を新たに明示。
- 健康と運動の関わりを重視するとともに、不安や悩みなどへの対処やけがの手当を技能として新たに明示。
- 健康に関心がもてるようにし、課題を解決する学習活動を取り入れるなど指導方法を充実。

体育科改訂の趣旨及び要点

①【現行学習指導要領の成果と課題】

＜成果＞	＜課題＞
<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツが好きな児童生徒の割合が高まったこと。 ・体力の低下傾向に歯止めがかかったこと。 ・「する、みる、支える」のスポーツとの多様な関わりの必要性や公正、責任、健康・安全等、態度の内容が身に付いていること。 ・子供たちの健康の大切さへの認識や健康・安全に関する基礎的な内容が身に付いていること。など 	<ul style="list-style-type: none"> ・習得した知識や技能を活用して課題解決すること。 ・学習したことを相手に分かりやすく伝えること。 ・運動する子供とそうでない子供の二極化傾向がみられること。 ・子供の体力について、低下傾向には歯止めはかかっているものの、体力水準が高かった昭和60年頃と比較すると、依然として低い状況がみられること。 ・健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十分であり、社会の変化に伴う新たな健康課題に対応した教育が必要との指摘があること。

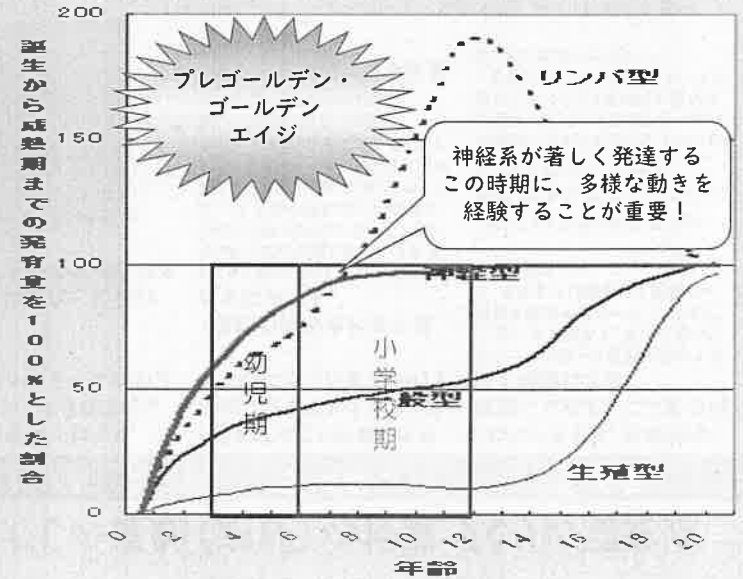
	現行学習指導要領	新学習指導要領
目標	<p>心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。</p> <p>学びに向かう力、人間性等</p> <p>思考力、判断力、表現力等</p> <p>知識及び技能</p>	<p>共通のリード文</p> <p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。</p>
究極の目標	<p>楽しく明るい生活を営む態度を育てる。</p>	<p>生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成すること。</p>
具体的な目標	<p>「運動に親しむ資質や能力の育成」</p> <p>「健康の保持増進」</p> <p>「体力の向上」</p>	<p>(1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。</p>

子供を取り巻く社会環境の変化



スキヤモンの发育曲线

運動の重要性



発達の段階を踏まえた指導内容の体系化

	小学校			中学校		高等学校		
	1, 2年	3, 4年	5, 6年	1, 2年	3年	入学 年次	次の 年次	それ 以降
体つくりの運動(遊び)	体づくり運動	体づくり運動	体づくり運動	体づくり運動	体づくり運動	体づくり運動	体づくり運動	体づくり運動
器械・器具を使った運動遊び	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動
走・跳の運動遊び	走・跳の運動	陸上運動	陸上運動	陸上運動	陸上運動	陸上運動	陸上運動	陸上運動
水遊び	水泳運動	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳
表現・リズム遊び	表現運動	表現運動	ダンス	ダンス	ダンス	ダンス	ダンス	ダンス
ゲーム	ゲーム	ボール運動	球技	球技	球技	球技	球技	球技
				武道	武道	武道	武道	武道
				体育理論	体育理論	体育理論	体育理論	体育理論
				保健領域	保健分野	科目保健	科目保健	科目保健
	基本的な動きに幅広く取り組む楽しさ	全ての領域の特性や魅力に触れる楽しさ	自分に合った運動を選び深める楽しさ					

体づくり運動について

平成20年度(小学校・中学校)、21年度(高等学校)改訂の内容					
小学校			中学校		高等学校
1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3年	
体ほぐしの運動					
多様な動きをつくる運動遊び	多様な動きをつくる運動	体力を高める運動			
体を動かす楽しさや心地よさを味わう。 様々な体の基本的な動きを培う。	体力を高めるためのねらいをもって運動する。	体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを継続する能力を高めるための運動の全てを行う。	日常的に取り組める運動例を取上げる。		
平成29年度(小学校・中学校)改訂					
小学校			中学校		高等学校
1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3年	
体ほぐしの運動					
多様な動きをつくる運動遊び	多様な動きをつくる運動	体の動きを高める運動	実生活に生かす運動の計画		

体づくり運動について

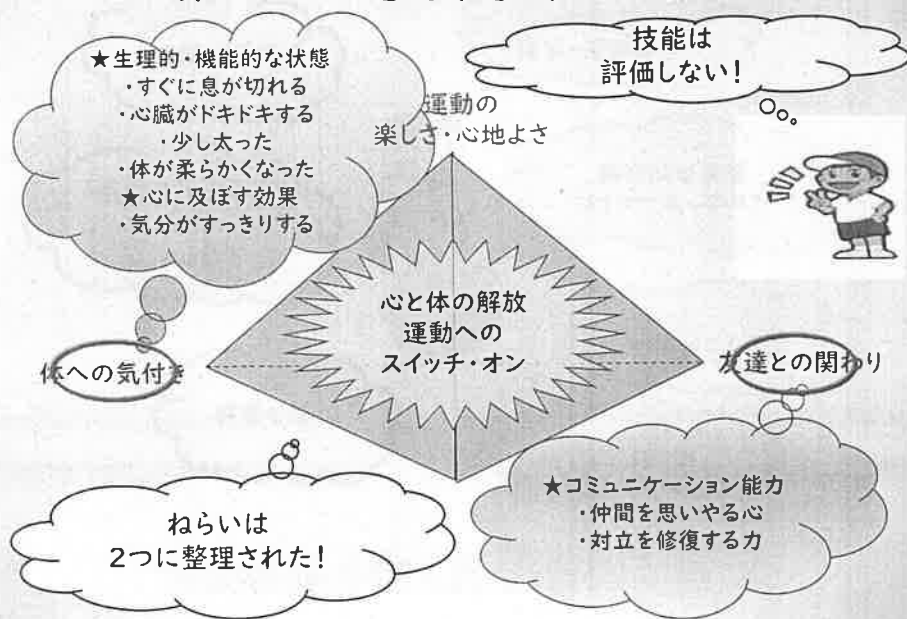
	低学年	中学年	高学年
	体づくりの運動遊び	体づくり運動	
①	体ほぐしの運動遊び	体ほぐしの運動	
②	多様な動きをつくる運動遊び	多様な動きをつくる運動	体の動きを高める運動

他領域とのちがいは？ → 直接的に体力向上をねらう点 (指導者側)

スムーズに動ける体づくり(生涯にわたって...)を意識

体ほぐしの運動(遊び)について

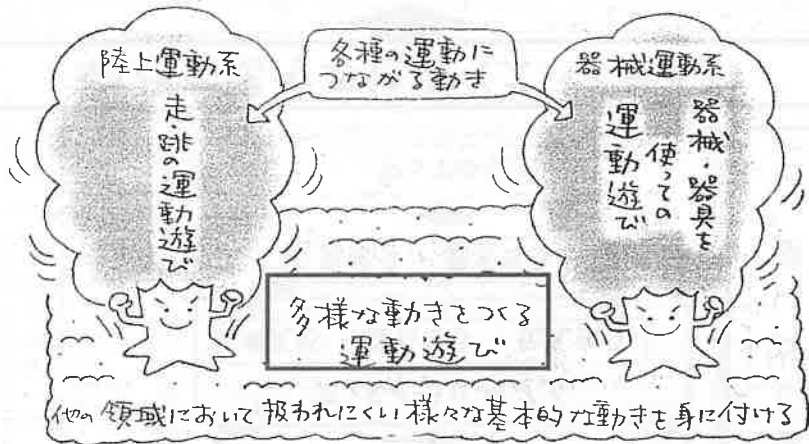
体ほぐしの運動(遊び)のねらい



体ほぐしの運動(遊び)の授業づくりの留意点

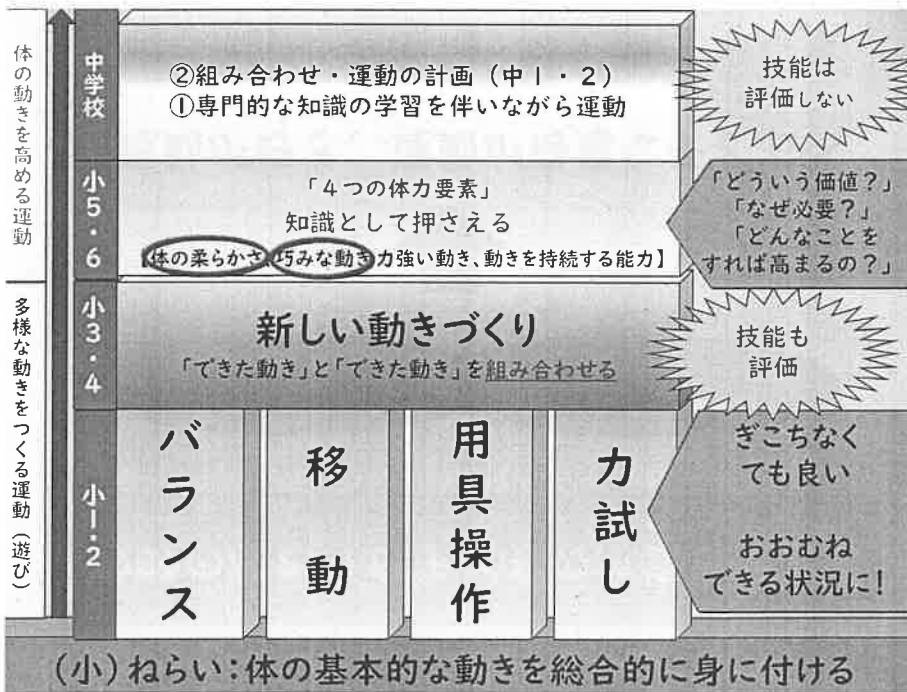
1・2年	3・4年	5・6年
<ul style="list-style-type: none"> ・技能の有無ではなく、「関わり」に焦点化するように言葉かけをするのがよい。 ・心や体の変化への気付きを促すための言葉かけを工夫する。 ※「体を動かすと気持ちが良い」、「力いっぱい動くと汗が出る」、「胸がドキドキする」など、様々な体内の変化を知覚できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動することの楽しさや心地よさを味わえるように、ねらいに合った言葉かけを。 ・運動の組み合わせや流れを工夫する。 ※「4人組から8人組に人数を増やしたらどんな感じかな。」「目をつむって声かけだけでもできるかな。」と人数や流れなどの条件を変えることで、運動の楽しさや心地よさも変わってくる。意図的に組み合わせ方や流れを変えるようにする。 ・関わりを価値づける言葉かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいをもち、主体的な活動になるように工夫の視点を明確にする。 ※テーマに合った運動を選んで行う。テーマを決めて、それに合った運動を学級やグループ、ペアなどで、それまでに経験した運動から選んで行う。 ・自己の心や体の変化への気付きを促すように行い方や発問を工夫する。 ※運動すると心が軽くなったり体力を抜くとリラックスできたり体の動かし方によって気持ちも異なることなど、心と体が関係し合っていることに気付かせたい。

多様な動きをつくる運動(遊び)のねらい



動きの「もと」を育む

引用:これだけは知っておきたい「体育の基本」 東洋館出版



多様な動きを高める運動(遊び)・体の動きを高める運動の授業づくりの留意点

多様な動きを高める運動(遊び)	体の動きを高める運動	
1・2年	3・4年	5・6年
<ul style="list-style-type: none"> ・「やってみよう」を引き出すための活動の場を工夫する。 ・動きが広がるように動きの視点を提示する。 ※人数、回数、距離、時間、姿勢、用具、方向などの視点を変化させる。 ※易しい動きから条件を変えたり、競争したりして、さまざまな動きを多様に経験することで、動きのレパートリーを増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の場の工夫 ※2つ以上の動きを同時に行ったり、連続して行ったりする運動(簡単な動き)を組み合わせ、「組み合わせの運動」を工夫する。 ・動きの質を高めるために、よい動きや行い方の工夫のポイントを押さえる。 ※どうしたらうまくいったのか、他にどんな動きができるかを考え伝え合う。それを共有していくことでレベルが自然と上がっていく。(思考・表現・判断力、学びに向かう力につながる) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がねらいをもち、意欲的な活動になるよう工夫の視点を明確にする。 (柔)(巧)(力)(持)の中のどんな動きが高まるのかを問う。 ※工夫する視点 人数、回数、距離、時間、姿勢、用具、方向など ・動きのこつや自己の体力の高まりが実感できるよう行い方を工夫する

単元の組み方(例)

「体づくり運動」の指導計画の作成

小学校の指導計画例

4つの運動遊びを均等に配当した計画

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
体のバランスをとる運動遊び (授業の前半)				体を移動する運動遊び (授業の前半)				力試しの運動遊び (授業の後半)			
用具を操作する運動遊び (授業の後半)				用具を操作する運動遊び (授業の後半)				用具を操作する運動遊び (授業の後半)			

動きを確認しながら運動する時間
 動きを選び、工夫しながら運動する時間

「用具を操作する運動遊び」を毎時間配当した計画

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
体のバランスをとる運動遊び			体を移動する運動遊び			力試しの運動遊び			用具を操作する運動遊び			用具を操作する運動遊び		
用具を操作する運動遊び			用具を操作する運動遊び			用具を操作する運動遊び			用具を操作する運動遊び			用具を操作する運動遊び		

小学校の指導計画例

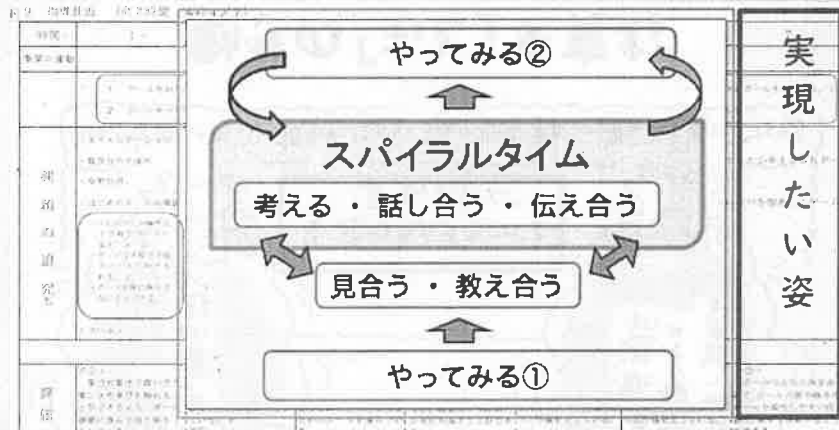
「基本的な動きを組み合わせる運動の時間」を十分確保した計画

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
体を移動する運動		体のバランスをとる運動		用具を操作する運動		用具を操作する運動又は体のバランスをとる運動		基本的な動きを組み合わせる運動		基本的な動きを組み合わせる運動	
力試しの運動		用具を操作する運動		用具を操作する運動		用具を操作する運動		用具を操作する運動		用具を操作する運動	

動きを確認しながら運動する時間
 動きを選び、工夫しながら運動する時間

「動きを選び工夫する時間」を毎時間設定した計画

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
体のバランスをとる運動			用具を操作する運動			体を移動する運動			力試しの運動		
動きを選び工夫する時間			動きを選び工夫する時間			動きを選び工夫する時間			動きを選び工夫する時間		



試行と思考の往還 (スパイラル)

「わかる」「できる」がつながり、深化する

教師の関わりが子どもの意識を変える

励ましや賞賛

言葉かけ

運動が好き、運動が得意な子どもへ